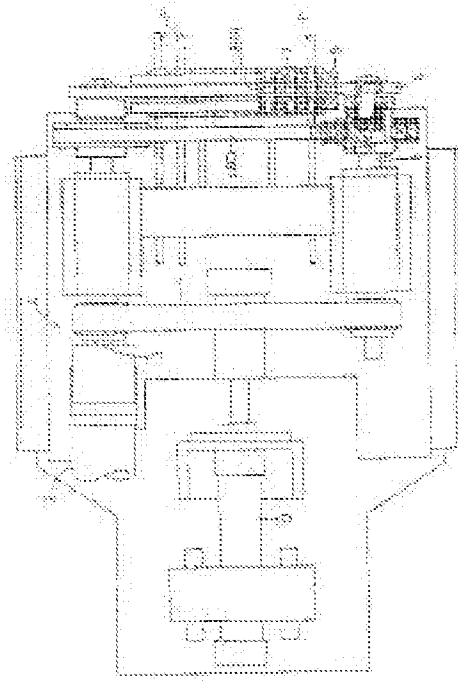


Abstract of JP 63200909 (A)

PURPOSE:To prevent production of burrs protruding outward in the cut edge of a pipe by providing bearings between a ring-like blade through which a pipe is inserted with play and a holder to hold the blade to eccentrically rotate it for allowing rotation of the blade to the holder. **CONSTITUTION:**A pipe P is clamped by a clamber 11, fed forward by means of a cylinder 12, inserted into a blade 7 and fed to a predetermined position, and a backward locomotion is applied to the clamber 11. Rotary shafts 3, 5 are synchronously rotated by a motor 2 to sway a holder 6, and the blade 7 is eccentrically rotated to press-cut the pipe P.; In this case, the blade 7 is installed in installation holes in the holder 6 with needles 8 intervening between them, so rotation of the blade 7 to the holder 6 is allowed about the center, and when the blade 7 eccentrically rotates about the pipe P, conversion of motion to the circumferential direction occurs between the blade and the outer circumference of the pipe P, thereby production of burrs in the cut edge surface is restricted.



公開実用 昭和63-200909

⑩ 日本国特許庁 (J P)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63-2009

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)12月

H 01 Q 1/38
1/40

7530-5J
7530-5J

審査請求 未請求 (全)

⑮ 考案の名称 送受信アンテナ

⑯ 実 願 昭62-91856

⑰ 出 願 昭62(1987)6月15日

⑱ 考 案 者 小 林 正 親 東京都杉並区久我山1丁目7番41号 岩崎通信機株式会社
内

⑲ 出 願 人 岩崎通信機株式会社 東京都杉並区久我山1丁目7番41号

明 細 書

1. 考案の名称 送受信アンテナ

2. 実用新案登録請求の範囲

テープ状の可とう性絶縁ベースと、該絶縁ベースに形成されたアンテナエレメントと、該アンテナエレメントを被覆する絶縁被覆層と、該絶縁被覆層上に形成された周波数目盛と、前記絶縁ベースの底面に接着剤層を具備したことを特徴とする送受信アンテナ。

3. 考案の詳細な説明

（産業上の利用分野）

本考案は送受信アンテナに関し、さらに詳しくは絶縁ベース上に導電膜のアンテナエレメントが形成されてなる送受信アンテナに関する。

（従来技術と問題点）

従来から種々の構造を有する送受信アンテナが実用化され、また、提案されている。例えば、受信感度を最良にするために、アンテナエレメントの長さや方向を調整して設置される棒状導体の組

み合せ構造で成る送受信アンテナや、トランシーバ等で使用されている伸縮自由な送受信アンテナ等がある。しかしこれらの送受信アンテナは剛体構造であるため使用上不便な場合がある。

また一方、ワイヤレスマイクロホンに使用されているような柔軟性のある線状の送信アンテナや、テープ状可とう性絶縁ベースに導体が形成され絶縁ベースの底面に粘着剤層等が設けられ所望の場所に貼付けができるアンテナ（実開昭59-61611号，実開昭61-156302号）などが実用または提案されている。テープ状絶縁ベースにアンテナを形成した接着可能なアンテナは壁面、窓ガラス面等に簡単に固定して使用できる便利さはあるが、このようなアンテナエレメント構造の場合は、特定の周波数に同調するアンテナ寸法を定めるのが困難であった。

（考案の目的）

本考案は、上述の問題点に鑑みなされたもので、送受信機の使用周波数に応じて容易にアンテナ長を決められる送受信アンテナを提供することを目

的とする。

（問題を解決するための手段）

上記目的を達成するために、本考案はテーブル状の可とう性絶縁ベースと、該絶縁ベースに形成されたアンテナエレメントと、該アンテナエレメントを被覆する絶縁被覆層と、該絶縁被覆層上に形成された周波数目盛と、該絶縁ベースの底面に接着剤層とを具備して送受信アンテナを構成した。

（作用）

本考案に係る送受信アンテナを送受信機に取付ける場合、使用者は当該送受信機で使用する特定の周波数に合わせてアンテナに付された周波数目盛を読み、その部分でアンテナを切断するだけでアンテナの最適整合条件を得ることができる。

（実施例）

以下、図面に基づいて本考案を説明する。

第1図は本考案の実施例の送受信アンテナで（a）は正面から見た概略構成図、（b）は上面から見た概略構成図である。1は可とう性のあるテーブル状の絶縁ベース、2は接着剤層、3は導体

膜の形成されたアンテナエレメント、4は絶縁被覆層、5は絶縁被覆層4上に形成される周波数目盛、6はアンテナリードである。

本考案は可とう性を有する絶縁ベース1の方向の面に導電膜のアンテナエレメント3を形成し、他方の面に接着剤層2を設ける。一方アンテナエレメント3は絶縁性保持のため絶縁被覆層4で被われる。そして、絶縁被覆層4上にはあらかじめ周波数目盛5が設けられている。使用者は送受信機で使用する特定の周波数に合わせて、アンテナ上の周波数目盛5を見ながらアンテナを切断する。

次に、電波の送受信感度が最良になるよう、接着剤層2を利用して、室内にあっては壁面又は天井に、車内にあっては窓面に、携帯型送受信機にあってはヘルメット又は衣服等に貼付ける。そして、リード6を送受信機に接続し使用に供する。

次に、周波数目盛5の付与法を説明する。

本考案に係るアンテナエレメント3の断面は、ある幅、厚さを有するため理想的な線状アンテナのように、電波の電流分布は完全な正弦波形状と

ならず、第2図に示すようにアンテナ終端である有限な値となる。つまり、周波数目盛を等間隔にすると最適な整合条件は得られない。アンテナ終端での電流値や電波の電流分布の形状はアンテナエレメント3の材料および塗布又は蒸着して製造した場合の形状（膜の厚さや長手方向の形状）に関係し、またアンテナエレメント3の上下面の絶縁フィルムの材質にも関係する。本考案では、これらすべての影響を加味して実験的に周波数目盛5を付すようにしているため、使用者が使用を希望する任意の周波数目盛で切断してもアンテナの最適の整合条件を達成できる。

（効 果）

以上説明したように、本考案の送受信アンテナではアンテナの長さを送受信周波数に合わせて切断するだけで、送受信電波との最適の整合条件を実現でき、かつ、所望の場所に簡単に取付けられる。

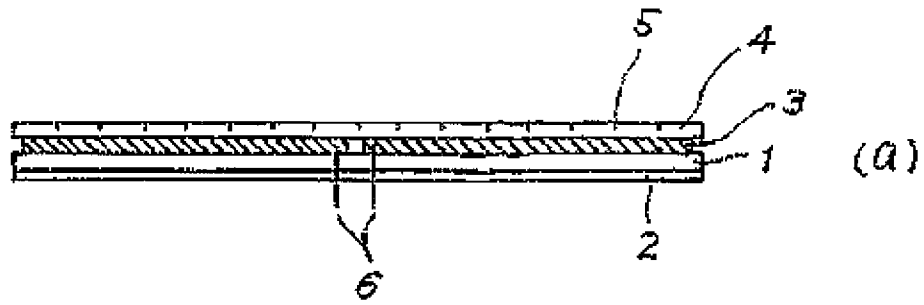
4. 図面の簡単に説明

第1図は、本考案の実施例の送受信アンテナで、（a）は正面から見た概略構成図、（b）は上面

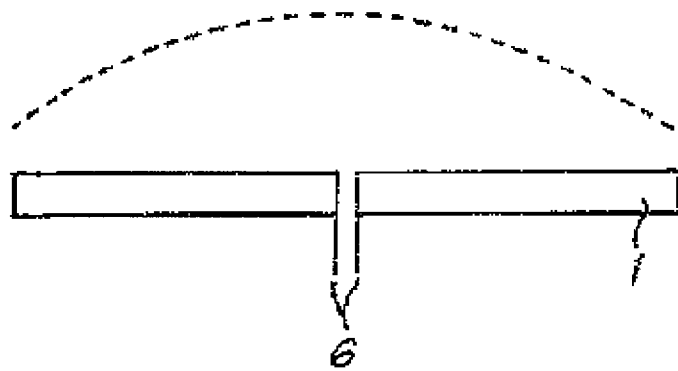
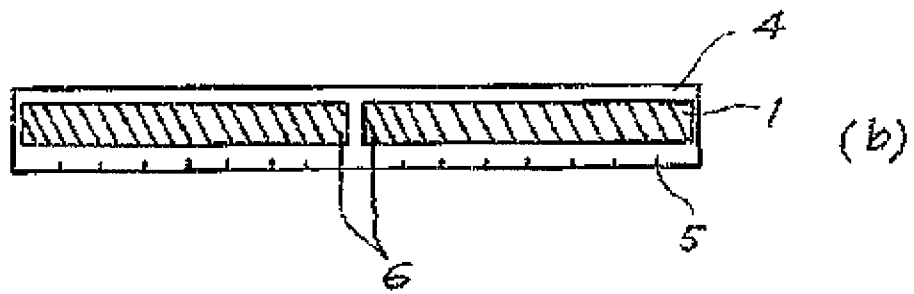
公開実用 昭和63-200909

から見た概略構成図である。第2図は、本考案の送受信アンテナの電波の電流分布状態を説明するための図である。

実用新案登録出願人 岩崎通信機株式会社



第 1 圖



第 2 圖